

病院だより

ガイアの季節

第1号 (平成17年8月10日発行)



医療法人 伴 帥 会

愛野記念病院

〒854-0301 長崎県南高来郡愛野町甲3838-1

TEL (0957) 36-0015 FAX (0957) 36-1027

ホームページ <http://www.ainomhp.jp/>

◎ケアマネジメントセンター

◎介護老人保健施設「ガイアの里」

◎愛野町在宅介護支援センター(委託)

◎グループホーム「椿高野」

◎グループホーム「山椿」

ご挨拶

院長 貝 田 英 二



ひまわりが咲きほこる時季を迎えました。

この度、広報誌を発行することとなりました。この広報誌を通して、より皆様に親しまれるような病院でありたいと願っています。

昭和54年8月、50床の病院として出発しましたが、26年を経て260床の愛野記念病院と70床の介護老人保健施設ガイアの里、椿高野と山椿の2つのグループホームなど職員総数400名余りの島原半島きって有数の大きな組織になりました。これからも更に発展していけるよう常に地域のニーズに合った診療体制を整えていきたいと考えております。

まず当院の診療部門の特徴について述べたいと思います。整形は、年間1,600例以上の手術件数があり、外傷をはじめ手の外科・関節外科・脊椎外科分野で高いレベルの治療を行っています。特に手の外科はマイクロサージャリーを応用した切断肢指再接着術・複合組織移植は県外からの紹介も受けています。又関節外科にも力を入れており、人工関節置換術や肩の鏡視下手術は県下でもトップクラスの症例数となっています。

内科は、循環器内科・呼吸器内科・消化器内科を主体に内視鏡・超音波・心臓カテーテル・心臓ペースメーカー等検査や、糖尿病外来、喘息外来、肺炎球菌ワクチンの取り扱いや睡眠時無呼吸症候群の精査、在宅酸素療法も行っています。様々な検査設備の導入（心臓検査対応型マルチCT）による迅速な対応で充実した内科医療を実現し、また近隣町を中心にした人間ドック、心臓ドックも行っています。

外科は、一般消化器として上下部消化管疾患、肝胆膵疾患、癌の発見から緊急の吐血、下血の管理処置にも対応しております。手術は、消化器外科は主として腹腔鏡下手術、甲状腺外科、乳腺外科、内・外痔核の手術、ヘルニアの手術をしており、救急の対応としては、一般外傷から頭部の穿頭血腫除去、腹腔内出血の血管造影よりの止血、緊急血液透析などの高度の救急医療を提供しております。また、苦しみのない終末期医療を目指して疼痛緩和にも全力で取り組んでいます。

又最近では栄養科や言語聴覚療法士を中心にNST（ニュートリションサポートチーム）「栄養サポートチーム」を県下に先がけて立ち上げ、「治療における全ての基盤は栄養管理である」という理念に基づき病院をあげて患者様の治療に役立てています。

さらにリハビリテーション部門は、総合リハビリテーションを取得し各分野に専門的治療を行っており（理学療法士13名、作業療法士8名、言語聴覚療法士2名）、近隣町に理学療法士、作業療法士を多く派遣し、県南地域リハビリテーション協力病院として地域に根づいた医療を行っています。

今後はこれらの分野を中心にして特色ある病院づくりを目指しております。その中心となるのは手の外科、末梢神経外科であり、手の外科センターを立ち上げ多くの人材を集め、又この道を目指す人達の研究施設として役立てていきたいと願っています。これからも、地域に愛される愛野記念病院でありたいと願っておりますので、よろしくお願いいたします。

スタッフ紹介

貝 田 繁 雄	医療法人 伴帥会 愛野記念病院 理事長 昭和18年9月 京城医学専門学校卒 昭和30年7月 医学博士の学位授与 産婦人科医
松 本 慶 蔵	医療法人 伴帥会 愛野記念病院 名誉院長 長崎大学名誉教授 (元)長崎大学熱帯医学研究所所長 昭和30年 東北大学医学部卒 平成3年4月 紫綬褒章(感染症研究) 日本内科学会功労会員、日本呼吸器学会名誉会員、日本熱帯医学会名誉会員、日本老年医学会前評議員、日本炎症学会名誉会員、日本感染症学会名誉会員、日本化学療法学会名誉会員

【整形】

貝 田 英 二	医療法人 伴帥会 愛野記念病院 院長 昭和47年 横浜市立大学医学部卒 日本整形外科学会認定専門医、日本手の外科学会評議員、長崎手の外科研究会代表、九州手の外科研究会世話人、九州マイクロサージャリー研究会世話人、第8回九州手の外科研究会会長(長崎市)
河 合 尚 志	昭和43年 長崎大学医学部卒 日本整形外科学会認定専門医、日本リハビリテーション専門医、麻酔科標榜医
伊 藤 茂	平成3年 長崎大学医学部卒 日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医
宮 崎 洋 一	平成3年 長崎大学医学部卒 日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会認定医、長崎手の外科研究会世話人
西 村 誠 介	平成8年 熊本大学医学部卒 日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医

【内科】

土 井 豊

医療法人 伴帥会 愛野記念病院 副院長
昭和48年 長崎大学医学部卒
日本医師会認定産業医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定専門医

出 川 聡

平成2年 長崎大学医学部卒
インфекションコントロールドクター専門医

中 路 敏 昭

昭和51年 長崎大学医学部卒

曾 野 弘 士

平成5年 近畿大学医学部卒

土 居 寿 志

平成8年 長崎大学医学部卒
日本内科学会認定医

河 本 定 久

昭和25年 長崎大学医学部卒
内科小児科医

【外科】

前 田 滋

医療法人 伴帥会 愛野記念病院 診療部長
昭和48年 長崎大学医学部卒
インフェクションコントロールドクター専門医、日本救急医学会専門医

深 堀 知 宏

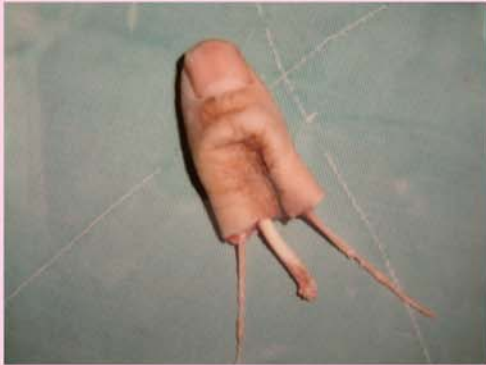
昭和59年 長崎大学医学部卒
日本外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医

古 賀 浩 孝

昭和62年 国立琉球大学医学部卒
日本外科学会認定外科専門医、日本スポーツ医学専門医

マイクロサージャリー（切断指再接着術）の症例

①



①船上にてロープを巻くローラーに左拇指を巻き込まれ受傷。受傷後38時間を経過して当院へ来院した。拇指はMP関節より引き抜かれて切断されており、腱、神経は引き抜かれていた。ただちに再接着術を行った。

②再接着術：まず骨の固定を行った。皮膚はMP関節で断裂していたが、骨はIP関節にて離断されていた。そのため、IP関節は固定した。次に動脈2本、静脈4本を10-0ナイロンにて顕微鏡下に吻合した。次に伸筋腱を縫合したが、屈筋腱は放置した。神経は引き抜かれており、放置した。



②

③



③は再接着術後の状態で、血行は良好に回復している。（受傷より再接着術までの時間が長かったにもかかわらず成功した症例）

④



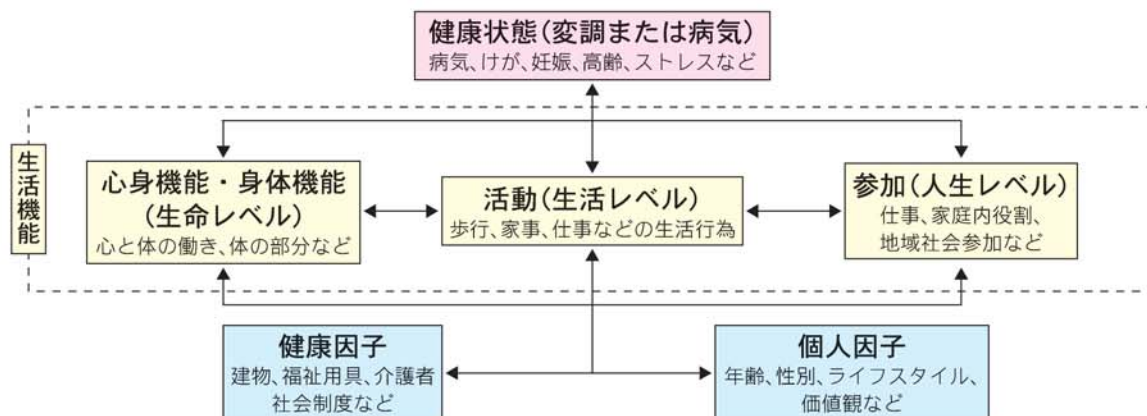
④術後1年。現職に復帰している。
（症例紹介につきましては患者様の同意の下掲載しております。）

★患部

1) 「国際障害分類 (ICIDH: International Classification of Impairments, Disabilities, and Handicaps)」から「国際生活機能分類 (ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health)」へ

WHOが2001年に発表したICFの考え方は、これまで「障害」についてのみ捉えてきたのは不十分とし、対象者の健康に関連する構成要素をいくつか付け加えた。すなわち「生活機能と障害」と「背景因子(環境因子、個人因子)」で構成され、リハビリテーションの対象は大幅に広がることになった。生活機能の維持、向上のため具体的にどう捉え、支援していくか理学療法士にとって大きな課題である。

国際生活機能分類 (ICF) : 2001



- ① 3つの要素は、それぞれ影響しあっている。
- ② 健康状態は3つの要素と影響しあっている。
- ③ 3つの要素は、環境因子と個人因子といった背景因子とも影響しあっている。

2) 介護予防

介護予防は新しい概念ではないが、今回の介護保険の見直しで改めてクローズアップされている。軽度の要介護や要支援の高齢者に対する支援は「転倒予防」「パワーリハビリテーション」「低栄養予防」「口腔ケア」「閉じこもり防止」等が考えられ、特に要支援では「立ち上がり」の低下、要介護1では「歩行」能力の低下がポイントになっており、いずれも下肢機能の低下から状態が悪化していくケースが多いと言われている。理学療法士の専門性が発揮される領域であり、介護予防という視点での捉え方も重要に思える。「地域リハビリテーション支援体制整備事業」の中でも、介護予防が主な課題である。「広域支援センター」の支援内容は以下の通りである。

- ・高齢者等の心身の機能低下を予防し、要介護状態にならないように予防する。
- ・市町村における老人保健事業（機能訓練、健康教育等）、高齢者の健康増進サービスの充実強化
- ・市町村における介護予防事業の充実
- ・高齢者の心身の機能低下、要介護の状態に応じた適切なリハビリテーションを提供するための、在宅及び既存施設のリハビリテーション機能の強化

県南地域でも、広域支援センター（池田病院）を中心に県南保健所（事務局）、2つの協力病院（泉川病院、愛野記念病院）と連携し、研修会の開催、転倒予防教室への講師派遣等を行っている。

3) 訪問リハビリテーション

これからの理学療法を考える上で、生活の現場で生活機能の維持、向上に必要な確かな理学療法を行う訪問リハビリテーションは今後、ますます推し進められるべきではないだろうか。訪問リハビリテーションでは、理学療法士としての専門性はもちろん、対象者の日々の生活を知り、また対象者の気持ちに耳を傾け、共感できる人間性などが求められている。

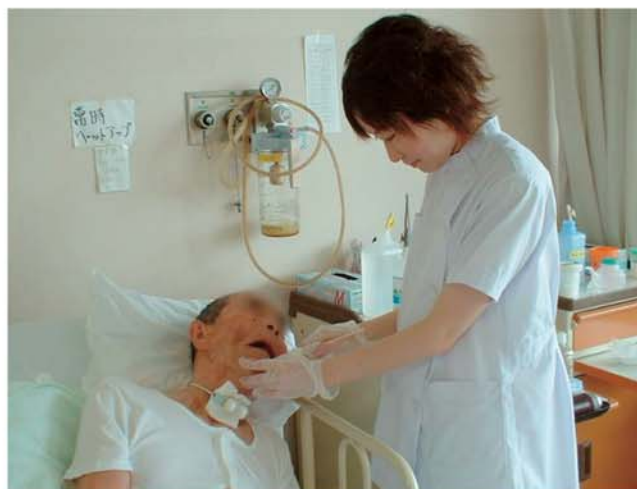
「作業療法室より」

リハビリテーション部 主任
作業療法士 田 崎 和 幸

当院の作業療法（リハビリ）室は日本有数のハンドセラピー施設であり、1日80～100名の手の外科疾患の患者様を治療しております。一般的に手（上肢）の外傷・疾患例に対しては、手の外科医による手術などの的確な初期治療が施されたのち、ギプスなどで安静固定されます。その安静固定期間中に関節などが硬くなり（拘縮）、運動制限が出現します。ハンドセラピーとは、主にこのような拘縮状態に陥った患者様の手のリハビリを行い、useful hand（使える手）を目指して社会復帰が可能となるよう支援することです。訓練開始初期の段階はgolden timeと呼ばれるほど治りやすい時期である反面、手の外科医が初期治療時に修復した組織の治癒状態が不十分な時期であるため、容易にその組織の転位や離開が生じやすい難しい時期であります。例えば、過剰な運動により骨折部が転位したり、縫合された筋、腱、靱帯、神経、血管などが再断裂してしまいます。逆に不十分な運動ではますます拘縮を助長し、重篤な機能障害を残します。そこで当院では手の外科専門の作業療法士であるハンドセラピストを養成し、多彩で独自の訓練器具を導入しながら、患者様の病期・病態に応じた繊細で的確なケアを提供しております。また当院のハンドセラピストの活動は院内だけに留まらず、日本手の外科学会、日本ハンドセラピー学会、日本作業療法士学会などの様々な学会や同機関紙で、その的確な治療方法と良好な治療成績を報告するとともに、長崎県ハンドセラピー研究会を立ち上げて研鑽を積み、さらに県内・外の理学療法士、作業療法士のハンドセラピー研修も当院で行っております。我々スタッフは自他ともに認める日本一の手の外科センターを目指して日々精進しております。



理学療法室



言語聴覚士による口腔ケア



作業療法室

心臓検査対応最新マルチCT装置導入のご案内

当病院ではこの度、心臓検査対応型マルチCT装置を導入することとなりました。

ご承知のように、心臓検査対応最新型マルチCT装置は、これまでのCT装置に比べ、より短い時間でより精細な画像を撮影することができます。又あらゆる臓器の検査にも有用ですが、一番の特徴は心臓対応型である点です。

狭心症、心筋梗塞等の冠動脈検査をカテーテルを使用せずに描出することが可能となり、検査の負担を減らすことができますようになりました。

下記臨床写真は、正常な左冠動脈の立体像及び右冠動脈の狭窄の実例ですが、このような画像を短時間に検査する事が出来ます。

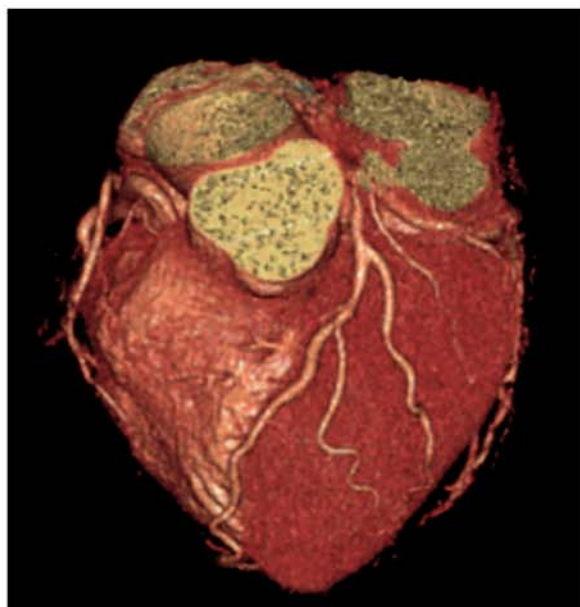
心臓検査対応最新型マルチCT装置は平成17年7月4日(月)より稼動致しましたので胸痛を訴える患者様の初期の検査としてご活用いただければ幸いかと存じます。

ご利用については、当病院の循環器担当医にお気軽にご連絡くださいますようお願い申し上げます。

これからも地域医療に邁進して参りますのでご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



〈正常な左冠動脈の立体像〉



〈右冠動脈の狭窄〉



ヘルシー・ソサエティ・アワード受賞

この度、松本慶蔵名誉院長が第1回ヘルシー・ソサエティ・アワードの学術研究者部門を受賞されました。

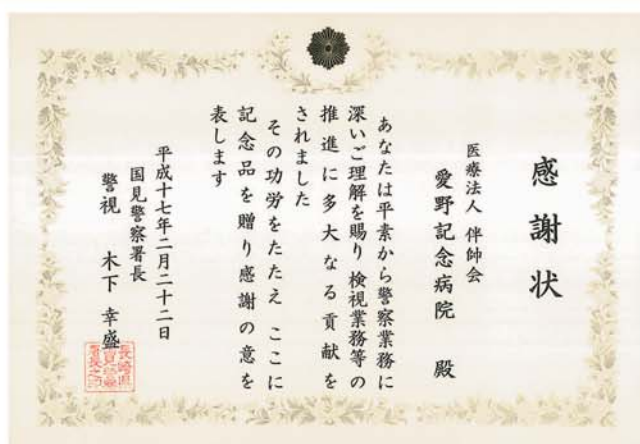
ヘルシー・ソサエティ・アワードとは、2004年に創設された国民の健康、地域社会の福祉、クオリティ・オブ・ライフの向上に貢献した、個人や組織のリーダーの功績を称えるために授与される、名誉ある褒章です。



右は松本、左はデザイナーの森英恵さん



国見警察署より感謝状をいただきました。



愛野記念病院の基本理念

- 一、私たちは、患者様、利用者様の立場にたち、納得していただける良質な医療・介護サービスを提供します。
- 二、私たちは保健・医療・福祉を通じて地域の皆様の安心・信頼・満足のゆく健康で豊かな生活を支援します。

今回皆様に広く親しんでいただけるように広報誌を作成いたしました。

当院では、現状に満足することなく、常に患者様の立場に立ち、地域に愛される病院を目指し、職員全員で奮闘中です。その情熱が少しでも皆様にお伝えできればと願っております。今後も地域医療を推進していく上で、様々な情報を、広報誌を通して発信していきますので、よろしくお願い致します。

地域医療連携室